児童の達成・失敗感情と学習動機の内面化に関する研究

—メタ認知的学習を中心として—

○島 袋 恒 男・中 尾 達 馬

(琉球大学教育学部)

メタ認知的学習、達成・失敗感情、学習動機づけ

An empirical study of achievement-related affects and motivation in children:

-The role of metacognitive learning-

Tsuneco SIMABUKURO and Tatsuma NAKAO

(Faculty of Education, University of the Ryukyus)

Key Words: Metacognitive learning, achievement-related affects, motivation

1. 研究目的: 学校教育全体の中で学習意欲(動機)を育てることが重視されてきている。本研究では学習意欲の育成(内面化)において、第1にメタ認知的学習の成立に注目する。メタ認知的学習とは目標と学習行動のモニタリングとコントロールに関係し(三宮, 2008), 目標達成の程度に応じて学習行動を反復・コントロールすることに関係している。第2に失敗感情と達成感情に注目する。通常の学習行動による達成が失敗に終わったとき、次は失敗しないためのメタ認知的学習が必要になる。そしてメタ認知的学習による成功により達成感情が喚起され、学習の価値が体得され学習意欲が高まっていくと推測される。

本報告では、失敗感情がメタ認知学習とどのようにつながり、さらにメタ認知的学習が達成感情とどう関係し、学習動機の内面化に関わっているのかを検討する。

2. 方法と手続き: 調査対象者: K 県 A 市の小学校 4, 5, 6 年生 98 名。調査尺度: 1) 児童用メタ認知学習尺度(藤谷, 2001): 目標設定と自己評価活動, 学習の自己探索活動, 学習の理解に向けた活動 12 項目, 5 件法。2) 達成・失敗感情尺度(奈須, 1990): 38 項目, 4 件法。3) 学習動機づけ尺度(速水, 1997): 20 項目, 5 件法。2013 年 6 月に、担任教諭の説明・指導のもと、調査を実施した。

3. 結果と考察(図 1~3): 全体では、失敗感情の「後悔」が「メタ認知的学習」と、「メタ認知的学習」が達成感情の「喜び」「統制・向上心」と強く相関していた。そして「喜び」「統制・向上心」は「同一化動機」「内発的動機」と高い相関を示し「メタ認知的学習」を媒介して失敗感情と達成感情が動機づけの内面化にかかわっていた。

高群では、失敗感情の「後悔」「くやしき」が「メタ認知的学習」と高い相関を示し、「メタ認知的学習」は達成感情の「統制・向上心」「喜び」と相関を示していた。しかし、これらの感情は「同一化動機」と高い相関を示すが「内発的動機」とは無相関であった。また「外発的動機」「取り入れる動機」とは負の相関があった。もともと「喜び」「統制・向上心」, 「内発的動機」も高いため達成感情が「内発的動機」に影響することは少ないと考えられた。

低群では、失敗感情の「後悔」が「メタ認知的学習」と相関を示すが高い相関ではない。そして「メタ認知的学習」は達成感情の「喜び」「統制・向上心」と相関するが高群ほど高くはない。しかし「統制・向上心」は高群とは異なり、「同一化動機」「内発的動機」と高い相関を示している。勉強が苦手でもメタ認知的学習を少しでも取組み、達成し「統制・向上心」を感じることでできる子は動機づけを内面化できることを伺わせる。しかし低群は学業失敗において「後悔」を感じにくく、メタ認知的再学習への取り組みが行われにくい可能性がある。

図1 失敗感情,メタ認知的学習,達成感情,動機づけの相関(全体)

図2 失敗感情,メタ認知的学習,達成感情,動機づけの相関(メタ認知的学習高群)

図3 失敗感情,メタ認知的学習,達成感情,動機づけの相関(メタ認知的学習低群)